先輩に聞く！プログラマーへの道しるべ　vol.20 野口慶美さん

みなさんは、世界の第一線で活躍されている女性プログラマーの方々をご存知でしょうか？　JOI情報オリンピック日本委員会が実施する「先輩に聞く！プログラマーへの道しるべ」では、プログラミングやその周辺の技術や知識を使って活動している女性の先輩方に、お仕事内容や学生時代についてのお話を伺っていきます。

第20回目に登場いただくのは、株式会社オービックビジネスコンサルタントの開発部に所属し、主任をされている野口慶美（のぐち・よしみ）さんです。聞き手はJOI情報オリンピック日本委員会理事で東京大学の山口利恵が務めます。ぜひみなさんの進路の参考にしてみてくださいね。

株式会社オービックビジネスコンサルタント野口慶美さん

「勘定奉行におまかせあれ」のフレーズで有名な会社

山口　株式会社オービックビジネスコンサルタントは、実は皆さんがよく知っている会社なんですよね？

野口さん　そうですね。「勘定奉行におまかせあれ」というテレビコマーシャルを見たことがある方もいるかもしれません。会計ソフトの「勘定奉行」や給与計算ソフトの「給与奉行」といった、企業の基幹業務を支えるシステムをつくっている会社です。

山口　野口さんはどんなお仕事をされているんですか？

野口さん　製品を直接つくるのではなく、製品を作るための基盤や監視ツールの開発、ユーザーの使用状況の分析などを担当しています。例えば、「勘定奉行クラウド」という製品は、クラウド上のサービスになりますが、きちんと動いているか監視が必要になります。その監視を支えるためのツールなどをつくっています。

山口　どんな時にやりがいを感じていますか？

野口さん　機能改善に繋がる仮説を立てられた時は嬉しいですね。新しい技術に触れられるという楽しさもあります。

文系の経済学部から IT 企業へ就職

山口　大学時代はどのような研究をされていましたか？

野口さん　岡山大学の経済学部で化粧品会社の広告宣伝効果について研究をしていました。

山口　大学で学んだことと現在のお仕事は違うジャンルだと思いますが、なぜこの分野にチャレンジしようと思ったのですか？

野口さん　きっかけは就職活動です。最初は広告関連の会社を探していましたが、就活時にシステム寄りの会社に出会い、そこで拡張現実（AR）の話をしていて、面白そうだなと思ったのがきっかけです。

山口　大学時代は、大学祭の実行委員もやられたそうですね。

野口さん　はい。学祭ではカラオケ大会や美女コンテストなど、いろいろなステージを企画しました。

学祭のステージを企画。

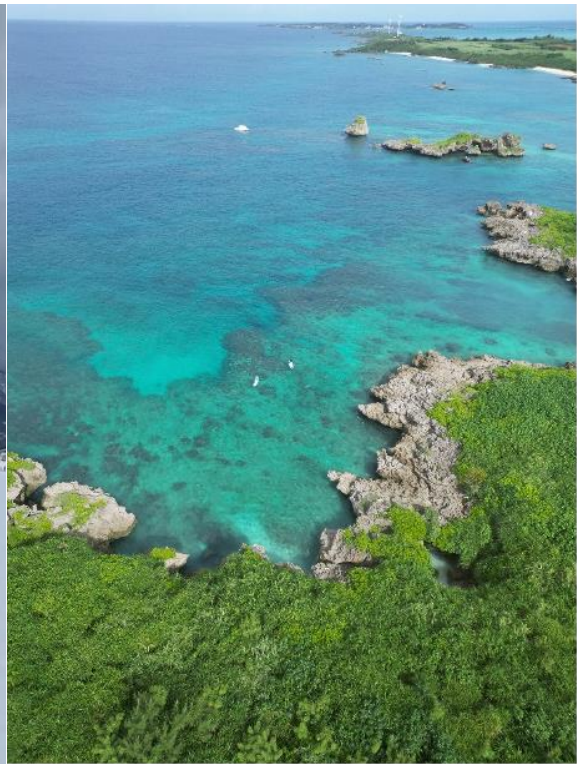
一番左が野口さん。学祭の前に岡山市内にポスターを貼りに行った時の写真。

野口さん　岡山に「うらじゃ」というお祭りがあって、そこでは鳴子を持って踊るのですが、その踊りのサークルに入っていました。

「うらじゃ」の社会人サークル。野口さんは前列一番右。

山口　スノーボードや SUP も趣味とのことで、体を動かすのが好きなんですね。

野口さん　そうですね。小学校3年生から高校3年生までずっとバスケットボール部に所属して、ずっと体を動かしていたので、今でもスポーツは趣味です。



新人研修でプログラミングを勉強

山口　大学で経済学部を選んだのはなぜですか？

野口さん　学生時代、国語や社会よりは、数学の方が好きだったので、数字を取り扱う経済学部に興味を惹かれました。

山口　数学が好きだと理系を選びそうですよね。

野口さん　高校で文系か理系を選ぶ際、私の学校では理系を選ぶ女性が少なく、なんとなく文系に流れてしまいました。

山口　プログラミングとの出会いはいつですか？

野口さん　小学校の時に父と一緒にホームページをつくった経験があり、それが最初の出会いだったと思います。本格的なプログラミングは社会人になってからの新人研修で学びました。

山口　今後の目標など教えてください。

野口さん　会社都合ではなくて、ユーザーが本当にほしいと思うものをつくれる開発者になりたいです。実現のためには技術力やアイデア、人脈などいろいろ必要になると思うので、邁進していきたいと思っています。

山口　最後に、未来のプログラマーへメッセージをお願いします。

野口さん　プログラミングが好きな方は、その好きなプログラミングをとことんやってほしいなと思います。社会人になると、学生の時と比べると自分の時間をつくること自体難しくなります。ぜひ今のうちにやりたいことはとことんやってください。何か一つのことをやりきった経験は、プログラミングを続ける、続けないに関係なく、大きな糧になると思います。

山口　本日はありがとうございました。

【インタビューを終えて】
テレビCMなどでとても有名なソフトウェアの縁の下の力持ち的なお仕事をなさっている野口さん。クライアントの要望に応えるために、技術的に難しいということに加えて、相手の気持ちなどさまざまな配慮をしていらっしゃる姿が印象的でした。（山口）

次回もお楽しみに。